

「中部圏の将来ビジョン」 ～2050年を見据えた中部圏の広域的な地域づくり～ (概要)

I. 課題認識

| 社会構造の変化 | 産業構造の変化 | 中部圏の課題 | |
|---|---|--|---|
| 人口減少・生産年齢人口減少・高齢化、インフラ老朽化、環境悪化、災害リスク、最先端の都市開発、ボーダーレス化等を踏まえると、 「飛躍的な生産性向上」、「スマート社会の構築」、 「国土強靱化」、「人口減を踏まえた快適な生活空間の形成」、 「地域開発への最先端技術の活用」、 「グローバル化・スピード化」への取り組みが重要な課題 | 第1次産業では従事者の半減や高齢化等、第2次産業では新たな技術の活用へのシフトや新素材の開発等、 第3次産業では環境対応やIoT・AI等のデジタル技術の目覚ましい革新や世界規模の対流・交流活発化等が想定されており、これらを踏まえると、 「デジタル技術の革新とあらゆる産業の融合によるイノベーション・新産業の創出」、「産業のスマート化」、「観光等による対流・交流」への取り組みが重要な課題 | SWOT分析 | 中部圏の成り行き姿 |
| | | S (強み): ものづくりの集積、ゆとりがあり暮らしやすい環境、豊富な観光資源、都市と自然の一体的な圏域 等 W (弱み): 情報産業の弱さ、デザイン思考の弱さ、整備途上のインフラ、治山治水機能の劣化懸念 等 O (機会): デジタル技術の革新、スーパー・メガリージョンの形成、グローバル化等 T (脅威): 自動車産業の縮小懸念、ストロー現象・東京一極集中の加速、相対的地位の低下 等 | 生産年齢人口の減少を反映すると現在のGDP 81兆円は、2050年に56兆円に減少 |

中部圏に必要なことは、現状維持からの脱却、強みであるものづくり基盤の活用とデジタル技術革新への対応で、生産性の飛躍的な向上と付加価値の高い産業への進化・シフト

II. 中部圏が目指す将来像

| 【方向性①】ものづくり基盤とデジタル技術革新の融合で世界をリードする新世代の成長産業を創出する地域 | 【方向性②】人・もの・情報の対流・交流を創出し、世界から人を惹き付け、投資を呼び込む地域 | 【方向性③】広域での連携・つながりの強化で持続的に発展する地域 |
|---|--|--|
| <p>アイデアから製品化までを超高速化し、一気通貫で実現し続けられるよう、圧倒的なスピード化で新世代の成長産業を創出し、高い生産性と付加価値を生み出すイノベーション・エコシステムを構築</p> <p>＜新世代の成長産業を創出する地域となるために必要な機能＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①中部圏内外からイノベーション人材が集い、対流・交流の拠点となるイノベーション拠点の整備 ②研究機関や大学等の教育機関の高度化 ③IoT・AI・ビッグデータ等をはじめとするデジタル技術分野の産業の集積 ④都市空間・生活空間での実証実験を可能とする環境「アーバンチャレンジ特区」の創設 ⑤5G・Beyond 5G等の大容量高速通信網の整備、データ・通信網の安全・信頼性確保 ⑥イノベーション拠点と生産の現場との連達性を高める交通ネットワークの整備 ⑦新世代の成長産業の創出の意思決定スピード化に相応しい首都機能の移転 <p>アイデアから製品化までを超高速化し、一気通貫で実現し続ける地域</p> | <p>来訪者、居住者双方の視点で、産業と地域の魅力を高め、世界から人や投資を呼び込む環境を整備</p> <p>＜産業の魅力を高めるために必要な環境＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①イノベーション拠点を核とした研究開発やビジネスの分厚い集積 ②海外一流大学のサテライトの誘致等、世界的研究機関とのネットワーク化 ③中部圏の産業を担う人材を育成・確保する仕組みの強化 ④新産業の創出を促すインキュベーション施設・ファンドの設立・充実 ⑤環境負荷が圧倒的に低く、世界から注目されるスマート・エリア化 ⑥海外との往来の利便性を飛躍的に向上させる中部国際空港の二本目滑走路の整備 ⑦国際会議、グローバルMICE等の活発な開催による対流・交流の創出 ⑧ダイバーシティ対応・意思決定のスピード化・生産性を高める働き方等の企業風土の醸成 <p>＜地域の魅力を高めるために必要な環境＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オープン化、デザイン思考・芸術・文化の充実等による賑わいの創出 ②歩きやすさや回遊性を高める美しい景観の整備、まちの連続性の確保 ③緑化推進、水辺や自然を活かした安らぎ空間の形成 ④投資家やVIP等、富裕層を呼び込む5つ星クラスのホテルの立地 ⑤多様性を受け入れる環境の整備 ⑥安全・安心で快適な生活空間の形成 | <p>中部圏の各地域が、それぞれの資源や魅力を活かしながらか圏域全体の魅力を一層高める広域連携を強化するとともに、圏域内外とのネットワークを強化</p> <p>＜クリニア中央新幹線の活用を大前提に、連携・つながりを深めるために必要な環境＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①中部国際空港二本目滑走路の整備、名古屋駅や中部国際空港と各地域の移動時間短縮 ②各地域をつなぐ交通ネットワークの整備 ③交通ネットワークとデジタル技術革新を活用した物流の機能強化・スピード化 ④各地域をつなぐ5G・Beyond 5G等の大容量高速通信網の整備、データ・通信網の安全・信頼性確保 ⑤研究機関や大学等の教育機関の高度化、ネットワーク化 ⑥NAGOYAをゲートウェイとした広域観光地域づくり |

III. ビジョンの実現に向けた活動の展開

| ビジョンの実現に向けた中経連の活動 | 将来を見据えた中部圏広域での地域づくりを推進する仕組みの提案 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「II. 中部圏が目指す将来像」の実現に必要な機能や環境をテーマに、地域の関係者と連携した具体的な地域づくりを一緒になって推進 ・1年目(2019年度)は、関係者との議論を中心としながらも、並行して取り組みを検討し、2年目には地域と連携した具体的な実証活動をいくつか立ち上げ | <ul style="list-style-type: none"> ・広域で連携し、強力なリーダーシップを発揮し、地域づくりを推進する仕組みとして、産学官等の関係者で構成する「中部圏広域地域づくり協議会」(仮称)の創設を提案 |